

原子力安全検証委員からいただいた ご意見を踏まえた取組状況について

2026年6月1日

関西電力株式会社

- 第31回原子力安全検証委員会（2025年11月27日）までにいただいた**ご意見のうち、「意見A」に整理している項目に係る取組状況**について、取りまとめを実施。

その取組状況を踏まえ、

- ・「DXの活用」は、引き続き「検討段階」（検証委員会のフォローを継続）とする。

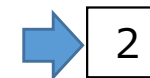
<参考>

意見A：ご意見を踏まえ新たに**取組方針を策定**するとともに、**取組状況を検証委員会でフォロー**していくもの

意見B：ご意見に対する当社の考えや取組状況について、**委員に対して説明**したうえで、**意見Aか意見Cを判断**するもの

意見C：ご意見の趣旨に沿って既に取り組んでいるが、**社内で共有し、当社活動を進めるうえで留意**するもの

ご意見の概要	検討段階	実施段階
DXの活用 第25回検証委員会(2022.12.7)他 ご意見4件	○	



2

◆ DXの活用

ご意見		取組方針・取組状況
1	<p><u>不具合事象について、「基礎現場力の再構築」とともに、デジタル化、さらにはDXの活用で防げるものがあるように思う。例えば、トルク値の間違いや申請漏れはDXを活用してチェックできるのではないか。</u></p> <p>【荒木委員】第25回(2022.12.7)</p>	<p>【取組方針】 AI等の最新技術を活用し、「安全・品質と効率化の両立」を目指すDX中期計画を策定し、取組みを推進している。また、海外や他産業の先進事例を参考に、ヒューマンエラーの防止・抑制、故障トラブルの未然防止、技能支援・継承に取り組んでいる。さらに、<u>生成AIの導入をはじめとする環境変化を踏まえ、安全確保・効率化・人財育成を一体的に実現するため、10の業務領域ごとに「目指すべき業務の姿」を整理し、その実現に向けた具体化を進めている。</u></p>
2	<p><u>不具合事象について、DXの活用も検討しているとのことだが、単にDXを使っていくということだけではなく、DXを活用してどのようなエラーをつぶしていくのかという考えを示していただきたい。</u></p> <p>【遠藤典子委員】第25回(2022.12.7)</p>	<p>【取組状況】 現場ネットワーク構築は2024年9月に大飯発電所から開始し、美浜発電所及び高浜発電所においても順次着手している。<u>2025年度末時点で、7ユニット中4ユニットの設置を完了した。</u> <u>デバイス導入にあたっては、パソコン・iPhone・iPadなどの設備影響調査を実施し、異常がないことを確認した。第1ステップとしてカメラ無効化パソコンの試運用を大飯4号機で2025年11月から実施中である。第2ステップとなるモバイル端末については、不適切なファイルアップロードの制限等の課題があり、対応に向けた検証を進めている。</u></p>
3	<p>DXの活用について、<u>法令手続きの申請漏れやトラブル防止に限定するのではなく、業務効率化と品質向上といった広い視点での取組方針を検討されたい。</u></p> <p>【山口副委員長】第27回(2023.11.21)</p>	<p><u>文書管理の電子化については、管理文書の電子化を進めるとともに、文書管理システムの改修により、検索性向上と業務効率化を進めている。</u></p>
4	<p>DXの活用は<u>事業の効率化に加え安全や品質の向上の両立が重要</u>である。発電電力量増大、コスト低減、効率化を目指す取組みとして、DXを使った<u>現場の工夫で解決していくといったボトムアップ的なアプローチに加え、安全と品質の向上を目的としたDX活用の全体を俯瞰したトップダウンの取組みを加えると、バランスの良い取組みになると思う。</u></p> <p>【山口副委員長】第30回(2025.6.2)</p>	<p>引き続き、不具合や労働災害の防止を目的に、ウェアラブル等による現場映像の共有、AIによるパラメータ監視、ロボット巡視などのデジタル技術を活用し、安全性向上への効果も視野に入れながら、定検エリア調整の高度化等、効率化を推進できるDX施策の検討を進めている。</p> <p style="text-align: right;">【所管部門：原子力事業本部】</p>